

互いを認め、自己存在感を高める指導の工夫

— ICTを活用したスモールステップの話合い活動を通して —

特別研修員 生徒指導、教育相談 粕川 慶大 (小学校教諭)

目指す児童像

互いを認め、自己存在感を高める児童

互いを認め合える人間関係が築ける。

教科の学びが深まる。

人間関係

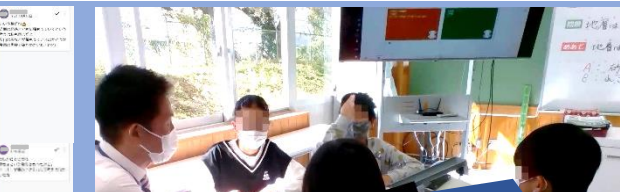
学習

ステップIII 話し合う

コメントを基に話し合うことで、互いを認め合うことができ、全員の意見が大切にされる。



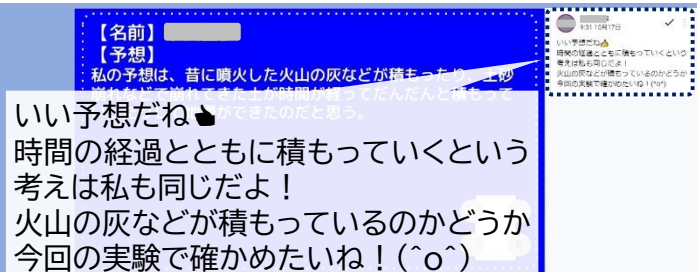
全員の意見を1画面で共有(Google スライド)



全員の意見を取り入れて話し合ったら、よりよい意見にまとめられた!

ステップII 共有する

コメント機能を活用することで、友達の見解を承認したり、自分の見解を承認してもらえたりできる。



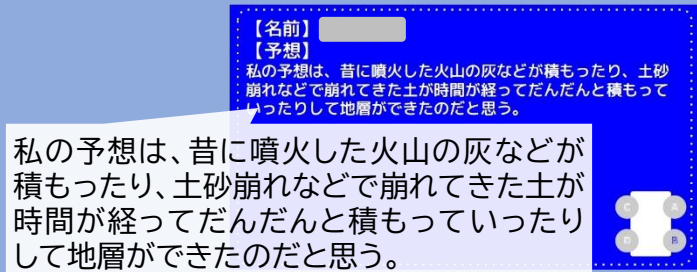
コメント機能(Google スライド)



自分の意見が大切にされている!

ステップI 意見を入力する

ICTを活用して自分の意見を入力することで、自分の意見を出出できる。



入力シート(Google スライド)



友達は認めてくれるかな...

間違えるのが怖いな...

手立て2 意見を出出、共有しやすくするためのICTの活用

全ての児童が自分の意見を出出できたり、即座に全員の意見を共有できたりする。

児童の実態

互いを認め合える人間関係が築けていない。

学習意欲に差があり、学びが深まっていない。

人間関係

学習

手立て1

- ICTを活用したスモールステップの話合い活動を取り入れたことにより、全ての児童が自分の考えを友達に直接述べたり、コメントを直接友達に伝えたりすることができた。
- 意見のよさや気付きを認めてもらうことにより、安心感が生まれ、自己存在感が高まった。

成果

- 話合い活動において、教師の指示ではなく、児童が自分たちで話し合い、認め合いながら次のステップに移れるようにするために、工夫した言葉掛けが必要である。

課題

スモールステップの話合い活動の設定

繰り返す